

経皮的テストステロン補充は poor responder の ART 成績を向上させるか
井上朋子、中山奈央子、河邊麗美、浅井淑子、姫野隆雄、西原卓志、森本義晴
HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

近年不妊治療を受ける患者の高齢化が問題視されている。高齢女性では、卵子の老化が進行するとともに、卵巣予備能が低下した結果、発育卵胞数が減少し、いわゆる poor responder として治療に苦慮することが多い。Poor responder に対する ART 補助的治療として、最近注目されている経皮的テストステロン補充療法の効果を調べた。

【対象と方法】

2015 年 1 月から 2016 年 4 月までの初診患者で、血中テストステロンを測定した。また ART 患者の中で、卵胞発育が定期的に起こらないものや、AMH が低値であり、かつ初診時の血中テストステロンが正常値を超えないものをテストステロン投与対象とした。テストステロン軟膏（グローミン；大東製薬工業株式会社）を、採卵前周期後半から月経 3 日目の卵巣刺激開始まで投与した。テストステロン投与量は 1.5mg/日、卵巣刺激法は基本的に経口排卵誘発剤を中心とした低刺激法を用い、主席卵胞径が 17mm に達した日に HCG を投与し、36 時間後に採卵をした。当研究は院内の倫理委員会の審議を経ており、インフォームドコンセントが得られた患者のみに投与した。データは t-検定で解析した。

【結果】

初診時の血中テストステロン値分布は 0~1.2ng/mL であり、成人女性の正常値 0.11~0.47ng/mL の下限未満のものが 441 人中 152 人 (34.4%) あった。また、測定感度の 0.03ng/mL 未満のものは 46 人 (10.4%) であった。薬剤投与を受けた 26 人で投与前後の血中テストステロン測定をすると、投与前の平均値 0.129 ± 0.024 から投与後の平均値 0.505 ± 0.289 に上昇した ($p < 0.001$)。薬剤投与前後の採卵数は投与前 2.35 ± 4.55 個、投与後は 2.785 ± 6.99 個であり、有意な変化は認めなかった ($p = 0.30$)。

【考察】

不妊患者では血中テストステロン値が低いものが多かった。経皮的テストステロン投与に

より血中ホルモン値は上昇したが、今回の検討では採卵数の増加は求められなかった。投与方法や対象者を見直す必要があるかもしれない。